

第4回 北助松駅周辺の道路空間を考える座談会 議事録【概要版】

日 時	令和3年6月25日（金）午後7時から午後7時40分
場 所	北助松駅周辺地区まちづくり事務所
出 席 者	○近畿大学 : 柳原 崇男 委員（座長） ○泉大津警察署 : 細川 知行 委員 ○南海電気鉄道 : 小出 康弘 委員（欠席） ○助松町自治会 : 片山 博文 委員（欠席） ○助松ハイツ自治会 : 石附 恭子 委員（欠席） ○上条自治会 : 榎本 稔 委員 ○東助松商店会 : 榎本 稔 委員 ○北助松商店街振興組合 : 浦野 純二 委員 ○清風南海学園 : 藤田 啓一 委員 ○高石高等学校 : 澤田 正 委員 ○小津中学校 : 小田 幹雄 委員 ○上條小学校 PTA : 山根 大輔 委員 ○かみじょう認定こども園 PTA : 城谷 貴紀 委員（欠席） ○かみじょう認定こども園保護者会 : 舩津 直美 委員（欠席） ○泉大津市 : 山野 真範 委員
事 務 局	○泉大津市都市づくり政策課：八木、中村、二俣 ○中央復建コンサルタンツ㈱：山室、富久、山根
会 議 次 第	1 開会 2 座談会 ・とりまとめと今後の検討課題について 3 連絡事項
配 布 資 料	1 次第 2 メンバー表・配席図

【1 開会】

【2 座談会（要約）】

- ・事務局による「とりまとめと今後の検討課題について」説明
- ・柳原座長による、本座談会のこれまでと方向性の振り返りの主旨説明
- ・北助松駅周辺の検討は、市の総合交通戦略を策定するということから始まっている。
- ・現状、国内外において、道路空間のあり方を見直そうという風潮である。
- ・これまで自動車中心に使われていた道路を、歩行者中心に変えていこうということで、交通量を減らしたり、クルマの速度を落としたりして、歩行者の空間を増やし、さらににぎわいや交通の安全性を高めて、歩行者がより歩きやすくなるような取組みが様々なところで行われている。
- ・北助松駅周辺地区でも交通安全に関する課題があり、商店街もある中で、道路空間のあり方について考えようということで、この座談会が立ち上がった。
- ・座談会では、交通安全が非常に課題であるという声があがってきた。
- ・駅前の北助松商店街だけではなく、上條小学校前の道路も危険だということで、まずは交通安全に関する対策を行い、そのあとでにぎわいについて考えるという方向性になった。
- ・小津中学校、上條小学校、かみじょう認定こども園を統合するように小津中学校を移転し、学園都市のようなまちにしてはどうか。
- ・中学校や北公民館は老朽化もしているし、建物を建替え、一貫校にしてはどうか。
- ・商店街をまたがる道路を作れば、高齢者も安全に歩くことができる。
- ・駅そのものの話ではないが、そういった施策に取り組んではどうかと個人的に考えている。
- ・行政として、今後の人口減少社会において、公共施設を減らしていく中でうまく統合させていくというプランもある。
- ・建物を建替えや一貫校のような案についても、教育委員会では、条東小学校も含めて考えている。
- ・北公民館に加え、北助松団地も老朽化が進んでおり、市は現在関与できていないが、URも今後手を入れるのではと思う。そうなれば人口動態もかわってくるかもしれない。
- ・助松団地は全棟が階段でエレベーターがない。
- ・エレベーターを設置すればよいというのが私の考え。
- ・現在1,500戸あるが、4～5階は空室が目立つ。
- ・UR管理になっているのでエレベーターの設置は難しいと思うが、現状の空室を解消するには、エレベーターが必要だと思う。
- ・50年前はよかったが、高齢者が増えてきている中では、そうすることで入居者が増えればにぎわいが生まれる。駅の話ではないが、そのようなことも考える必要がある。
- ・地域の将来のことをお話いただくことは重要。
- ・URは建替えの取組みもやっている。

- ・地域も積極的に参加いただければ、よりよいまちになるのではと思う。
- ・もし 7, 8m の洪水がくるとすれば、橋脚のあるところは木材等が詰まり、水が止まるが、柱がない北助松駅と高石駅の間には水が流れてくる。
- ・王子川堤防は標高 2m、北助松駅でもたぶん 3m もなく、水の流れる通路になるので、柱を建てた方がよい。
- ・和歌山の方では 25m や 30m の建物を建てているが、高石でも幼稚園を 12m の高さにしている。
- ・洪水の通り道になることを考えると、線路を上げておけば、そこに逃げ込める可能性もある。
- ・現状は標高 2m くらいしかないので、厳しい。
- ・防災面に関して、市にてハザードマップが作成されていると思うし、洪水のシミュレーションも可能だと思う。また、防災計画も市で考えてもらっていると思う。
- ・役所は縦割りだが、まちの住民にとっては、すべて生活の 1 つであるため、重要な提起である。
- ・座談会は、今回で終了となるが、今後具体的に社会実験、あるいは様々な交通安全対策に取り組んでいくことになる。
- ・その際は、地域の協力、あるいは地域の主体的な取組が理想的である。今後進める中では、そうした素地をつくって検討していけたらと思う。その際はご協力をお願いしたい。

【3 連絡事項】

- ・座談会としては、今回が最後となるがお礼を込めて山野より挨拶
- ・コロナ禍での 4 回の開催となったが、座談会で意見を賜り感謝する。
- ・今後、いろいろなことに取り組んでいきたい。
- ・総合交通戦略で全市を扱うなかで、市として一番気にしているのが北助松駅の周辺という位置づけである。
- ・この駅周辺には、高校、中学、小学校が集まり、通学する生徒・児童が多い。
- ・南海中央線の整備にも長年携わり、地域が少しでもよくなるように努めてきた。
- ・この座談会もその一つのステップとして位置づけ、皆さんに集まっていただいて、今後社会実験等を行う素地を作った。
- ・市も今後、予算、補助金を確保しながら進めていきたい。
- ・一足飛びに行くことは難しいが、一歩ずつ進めていきたい。引き続きご協力をお願いしたい。
- ・総合戦略は今年 10 月末に策定予定である。
- ・この座談会の結果をとりまとめたものは、後日委員にご配布する。
- ・今後の取組みの際は、引き続きお声がけをさせていただくのでご協力をお願いする。

以上